

創立70周年 記念式典・祝賀会

【日時】 令和元年11月22日(金)

【会場】 ホテルグランドプラザ浦島

記念式典 16:30～

祝賀会 17:30～



公益社団法人 栗原法人会
会長

上田 徹

栗原法人会は、令和元年11月、創立70周年を迎えました。

昭和24年11月17日に築館税務署管内の法人48社が参加し、「栗原法人協会」を創設した所から始まりました。昭和49年6月に栗原法人協会を発展的に解散、新たに栗原法人会としてリスタートし、昭和56年5月に社団法人化、そして平成25年4月1日をもって、「公益社団法人栗原法人会」となって今日に至っております。

これも偏に、会員皆様、税理士会県北支部そして地元自治体のご理解ご協力はもちろんのこと、税務ご当局、全法連、県法連そして厚生制度協力会社の皆様のご指導ご支援の賜物とありがたく厚く感謝申し上げます。



築館税務署長

名取 和彦

公益社団法人栗原法人会が、創立70周年を迎えられましたことに、心からお祝い申し上げます。

上田会長はじめ会員企業の皆様には、税務行政全般にわたり格別の御理解と多大な御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

貴会は、戦後、自主申告納税制度の導入を背景に企業の健全経営と企業活動を通じた地域社会・地域経済活動への貢献等を目的に、昭和24年に会員48社で栗原法人協会として設立され、昭和49年には、同協会を発展的に解散して、新たに栗原法人会の設立を経て、昭和56年に社団化されました。

平成7年には、青年部会、女性部会を同時に立ち上げ、組織の拡充・強化にも取り組まれ、会社数728社、加入率67.4%を誇る組織を築き上げられました。

さて、近年を振り返りますと、平成20年6月14日に「岩手・宮城内陸地震」が、平成23年3月11日には東日本大震災が発生し、貴会の多くの会員企業が被災し、筆舌に尽くし難い状況下においても、「心と心をつなぐ絵手紙教室」や「栗原復興祈念ほうねん座公演」の開催等、多くの社会貢献震災復興事業を企画・実施するとともに、地域の復旧・復興にも取り組まれながら、通常総会や各種事業活動等の再開に向けた御努力は並々な

ご挨拶

顧みますと、戦後、それまでの賦課課税制度から納税者自らが所得を計算し納税する「申告課税制度」へ移行した頃、「納税者自らが税の知識を習得し、自らの声を行政に反映させよう」との考えのもと、全国各地で法人会が誕生した訳ですが、栗原の地においても、先達の皆様が築館税務署と歩調を合わせ納税協力団体として、税知識の普及、納税意識の高揚等の事業活動を推進して参りました。

私たちは、これまでの70年の歴史と伝統を踏まえ、これからも「税のオピニオンリーダーとして、企業の発展を支援し、地域の振興に寄与し、国と社会の繁栄に貢献する」との理念のもと、これまで以上に公益性の高い事業を推進し、地域社会へ貢献して参る所存であります。

栗原法人会は会員数455社の小さな法人会ですが、会員皆さんで「小さくてもキラリと輝く法人会」を目指して頑張りますので、今後とも関係皆様の一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。創立70周年のご挨拶といたします。

お祝いの言葉

らぬものであったと伺っております。

そうした中で新公益法人制度による公益社団法人化に取り組み、平成25年4月1日に認可を受けられました。

その後は、より公益性の高い活動事業等を積極的に推進され、税務に関する研修会や税を考える週間における「税務等セミナー」の開催、更には「税に関する絵はがきコンクール」や栗原法人会独自の「高校生の税の写真展」への取り組みのほか、租税教育に関しては、毎年、多くの小学校の租税教室に率先して講師を派遣していただくなど、未来を担う子供たちの租税教育に対する熱意に対しまして大変心強く感じているところでございます。

また、平成26年4月からは、国税庁後援事業に指定させていただきました「中小企業の税務コンプライアンス向上への取組」として、「自主点検ガイドブック、自主点検チェックシート」の普及・拡大に取り組まれております。この活動は、国税庁の使命である「自発的な納税義務の履行を適正かつ円滑に実現する」に通ずるものであり、ご尽力に対しまして、重ねて御礼申し上げますとともに、税務当局といたしましても、税務行政の重要課題であるe-Taxの利用促進、マイナンバー制度の定着、改正消費税の円滑な定着等に向けて、税に関するオピニオンリーダーである貴会とこれまで以上に連携・協調し、取り組んでまいり所存でございますので、引き続きの御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに当たり、公益社団法人栗原法人会の益々のご発展と会員皆様の御繁栄を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



創立70周年記念式典・祝賀会次第

第一部 記念式典

1. 開 会
 2. 国歌斉唱
 3. 物故者並びに震災犠牲者に対する黙祷
 4. 来賓紹介
 5. 栗原法人会のあゆみ
 6. 式 辞
 7. 表彰状・感謝状の贈呈
 8. 来賓祝辞
- | | |
|------------------|-----------|
| 仙台国税局課税第二部 部長 | 阿 部 克 之 殿 |
| 栗原市 市長 | 千 葉 健 司 殿 |
| (一社)宮城県法人会連合会 会長 | 相 澤 博 彦 殿 |
9. 祝電披露
 10. 閉式のことば

第二部 記念祝賀会

1. 開 会
2. 開宴のことば
3. 乾 杯
4. アトラクション
5. 万歳三唱
6. 閉宴のことば
7. 閉 会

ご来賓名簿

国税ご来賓	仙台国税局 課税第二部	部長	阿部克之	様	
	仙台国税局 課税第二部 法人課税課	実務指導専門官	佐沼典子	様	
	築館税務署	署長	名取和彦	様	
	築館税務署 法人課税部門	統括国税調査官	久光郁郎	様	
官公庁ご来賓	宮城県北部県税事務所栗原地域事務所	所長	菅原雄一	様	
	栗原市	市長	千葉健司	様	
東北税理士会 宮城県北支部 ご来賓	東北税理士会宮城県北支部	支部長	藤野修一	様	
	東北税理士会宮城県北支部	幹事	宮本武彦	様	
	東北税理士会宮城県北支部	顧問	千葉恒平	様	
	東北税理士会宮城県北支部	顧問	菅原勝直	様	
宮城県内法人会 ご来賓	(一社) 宮城県法人会連合会	会長	相澤博彦	様	
	(公社) 仙台北法人会	会長	菅原裕典	様	
	(公社) 仙台南法人会	会長	佐藤和也	様	
	(公社) 塩釜法人会	会長	佐藤仁一郎	様	
	(公社) 大崎法人会	会長	市川雅朗	様	
	(公社) 登米法人会	会長	渡邊光悦	様	
	(公社) 気仙沼法人会	副会長	岡本寛	様	
	(公社) 石巻法人会	会長	松本賢	様	
	(公社) 栗原法人会	顧問	中嶋慶次	様	
	(公社) 栗原法人会	顧問	阿部忠雄	様	
	(一社) 宮城県法人会連合会	事務局長	吉田悟	様	
	友誼団体 ご来賓	栗原地方税務関係団体協議会	会長	佐藤和男	様
		(一社) 宮城県経営者協会栗原支部	顧問	野口春幸	様
株式会社ホップステップ		代表取締役	島田新一郎	様	
厚生制度 協力受託会社 ご来賓	大同生命保険株式会社 東北営業本部	本部長	小川和英	様	
	A I G損害保険株式会社 南東北担当 仙台支店	支店長	小原正浩	様	
	アフラック生命保険株式会社 仙台総合支社	支社次長	佐藤義人	様	
	大同生命保険株式会社 古川営業所	所長	藤井裕介	様	
報道関係	株式会社河北新報社 栗原支局	支局長	門田一徳	様	

表彰状・感謝状贈呈者

一般社団法人 宮城県法人会 連合会会長表彰	(公社) 栗原法人会	顧問	阿部忠雄	様
	(公社) 栗原法人会	元副会長	高橋幸男	様
	(公社) 栗原法人会	副会長	伊藤正吾	様
	(公社) 栗原法人会	元理事	三浦重雄	様
	(公社) 栗原法人会	元副会長	後藤紀美夫	様
	公益社団法人 栗原法人会 会長表彰	(公社) 栗原法人会	元理事	野口好江
(公社) 栗原法人会		元理事	今野やす子	様
(公社) 栗原法人会		元理事	小野寺郁子	様
(公社) 栗原法人会		前理事	渡邊毅	様
(公社) 栗原法人会		元理事	瀬川善悦	様
				大同生命保険株式会社 古川営業所 様
			A I G損害保険株式会社 様	
			アフラック生命保険株式会社 仙台総合支社 様	

創立70周年を迎えた今こそ大事にしたい！

法人会創立の原点と使命

株式会社ホップステップ 代表取締役

島田 新一郎 様

栗原法人会は今年、創立70周年を迎えました。

昭和24年に築館税務署管内に48社の会員の参画を得て、栗原法人協会の誕生をみました。

法人会の誕生は、石巻が昭和20年に全国第1号として設立され、その後の4年間で東北には32法人会が誕生をみており、東北の法人会は全国の先駆的な存在としての「いぶし銀」の如くの光を放っています。

県都である仙台での法人会設立は昭和30年で、石巻ははじめ当会が先んじた設立となっています。

その経緯について、歴史を俯瞰すると、背景には、戦時中の甚大な空襲被害が仙台をはじめ全国の大都市に甚大で、戦後復興にいち早く取り組めるだけの農業・水産・工業といった産業基盤がしっかりしていたことが挙げられています。

現に、石巻の設立以降、時系列に法人会誕生を地図でたどると、北上川を北上する形で順次、設立されており、それらを如実に物語っています。

そのことに加え、何よりも法人会創立に携わった先達の描いた「主権国家である日本を取り戻すために納税者が主人公となる社会」の実現に胆力を持って立ち上がった気概そのものをみることができます。

それは、法人会設立に携わった先達人の熱誠や気概が歴史の時空を超えて、今、響いてくる感慨深さを感じずる思いでもあります。

不易流行という言葉があります。「不易」はいつまでも変わらないこと、「流行」は時代に対応して変化することを意味しています。

創立70周年を迎えた今、創立の原点と趣旨という「不易」を理解し、新たな時代を切り拓くエネルギー（「流行」）を蓄えて、これからの歴史の歩みに臨んでいくことが大事なことだと認識されます。

本稿では、改めて法人会設立の原点を、設立を呼び掛け、原動力となった仙台出身の大蔵官僚の言葉を中心に記し、企業や関係者と法人会の原点を共有し、力強く次代を切り拓いていく「礎」としていきたいものです。

法人会誕生の背景に戦後の税務行政

法人会の設立の原点は、終戦（昭和20年）直後の税務行政と税制事情にあります。

往時の課税制度は「賦課課税制度」で、毎年、民

間からの代表者が営業者の所得額について意見を述べ合い、議論をして、最終的に所得調査委員会が所得を決め、決定された額を納付する仕組みでした。

まさに、納税者は全く蚊帳の外で、何も知らなくても決まった額を納めていけばよかったという、今にして思えば前近代的な制度でもありました。

しかし、終戦直後は、占領軍（GHQ）による行政を統治する時代で、大蔵省はじめ全ての行政省庁はGHQの指示に従わざるを得ず、とくに大蔵省はGHQから徴税目標が与えられ、反論も許されず、その目標額を達する、まさに上意下達の納税環境の時代でした。いわば、「税金の割り当て」です。

加えて、戦後のハイパーインフレの最中だっただけに、インフレを封じ込める上から、GHQからの指示は「前年度の4～5倍」といった指示を命じられるだけで、現場の税務職員は目の前に与えられた税収確保の立場から、強権的に、GHQを後ろ盾に「お前の所はこれだけ収める」といった推定での賦課課税を執行した時代でもありました。

徴収している税務署長や署員にとっても、目標に達しなかった場合は、左遷か解雇といった、まさに被占領国の悲哀を味わっていた時代でもありました。

以前、直近まで国税庁幹部だった人から、当時の税務行政を「跳梁跋扈（ちょうりょうばっこ）する時代」と、理不尽な対応をせざるを得ない時代だったことを回顧していたのを耳にしたことがあります。

また、全国法人会総連合の会長を務めた山崎巖氏は昭和50年の講演で、当時の状況を、「鬼より怖い税務署」「税務官吏は『おれたちは取るんだ、税金を取るんだ』と言い放ち』『はんこを持って税務署へ出頭せよ』。こういうのは当たり前」と述べています。

宮城出身の官僚が法人会づくりに



清野 真氏

昭和20～21年に大蔵省主税局や理財局で、GHQと対峙しつつも全国の税務行政を指揮していたのが、仙台二中・東京大学を経て、大蔵省に入省した清野真氏がいました。

特別寄稿

GHQとの交渉や地方の塗炭の苦しみにもがく納税者を見るにつけ、被占領国の悲哀を目の当たりしていた清野氏は、主権国家である日本を取り戻したいと、身命を賭す国土としての覚悟で、納税者が主人公となるために、法人会や青色申告会の設立を呼び掛けたのです。

納税者が主人公であるためには、『納税者はもっと勉強してもらわねばならない』として、これまで記帳を通じて所得を計算した経験のない納税者だけに、研鑽は欠かせないことを強く伝えていました。

折しも、昭和22年に今日のような申告納税制度が発足した時期に、清野氏は仙台国税局直税部長に就き、東北各地に法人会や青色申告会設立への働きかけに奔走したことは、想像に難くありません。

清野氏が老舗和菓子屋の子息として生まれ育った仙台や宮城の地には、知遇のある経済界の知人友人がいたことが容易に推察でき、彼の提唱に共鳴と賛同が寄せられたことは想像に難しくなく、燎原の火のごとく、東北各地で法人会設立がみられたものと思えます。

法人会の誕生と清野氏の提唱は、鳥が卵から孵化するとき、卵の内側から雛が声を発して殻から抜け出る意を告げ、親鳥が殻をつついて雛の出るのを助ける様を表した、「啐啄（そったく）」そのものであったと推量できます。

決して官製団体はなく法人会は自主団体

国家主権を復権するにあたっては、財政の基盤をなす租税の納税環境の整備が不可欠であり、納税者自身が主人公となる必要があると考えた清野氏は、「納税者が学ぶ場としての法人会が欠かせない」とするとともに、片や、「納税者が税務行政や執行に対しても意見を言わなければならないし、それは税務執行側にとっても助かる話だ」として、風通しのいい、民主的な納税環境を整えるための存在としての法人会を位置付けたのです。

清野氏の主権国家復権の救国の真意を受け、かつての賦課課税制度を知る地域の経済界の有志が立ち上がって、今日に至っているのが、法人会設立の原点なのです。

こう記すと、「法人会は税務当局から働きかけを受けた『官製団体なのか』と思う向きもあるかもしれませんが、設立に立ち上がった地域経済界の有志は、国家の主権を取り戻しつつ、納税者が主人公となり、新たに始まる民主的な税務行政に、納税者の声を反映しようとする、まさに以前には想像だにしがたかったコペルニクス的な発想の清野氏の姿勢に大きな共鳴を示して、自主的に設立されたものであり、決して官製団体でないことを歴史の真実として

深く理解していただきたいのです。

そうした清野氏の考えに、主税局や国税庁では「納税者に知識を与えたり、文句を言わせたり、団結させたりしたのでは、税金が取り難い」と猛烈な反対があったと、氏は著書の中で述懐しています。

しかし、自身の信念と反骨で「理想に到達するには時間がかかるかもしれない。にわかには、うまくいかないけれども、お互いじっくり勉強し合い、協力し合っていこうじゃないか。納税者と税務当局の対話を復活させようじゃないか」と、反対する省庁内を説得し続け、内にあっては孤軍でありながらも、理想の実現に身命を賭した姿がありました。

法人会の担うべき3つの使命

歴史を重ねる中で、真面目な納税者団体としての法人会は、税務行政への意見を伝え続け、前述の全法連の山崎会長は、「われわれ納税者と密接不可分になり、民主的な税務行政が今日に実現していることは、まさに法人会の功績であることは間違いのないことだ」と、清野氏の先見を讃えつつ、法人会自らが使命を果たしてきた自負と、役員が重ねてきた懸命の努力を労っています。

その清野氏が、法人会が設立に向かう時に、「勉強する団体、税務行政に意見を具申する団体」であることに加え、もう一つ、法人会が担うべき大事な使命を伝えています。

それは、「歳出なければ、税なし」ということです。余計な歳出がなければ、税を余計に取る必要もないという論理ですが、まさに財政硬直化、財政危機を招かぬよう、税の使い道や歳出に納税者団体として目を光らせよ、と伝えていたのです。

まさに、今日の膨らみ続ける債務残高を抱える国家への道を迎えることを予見していたかのように思え、存命であれば、法人会を叱責している姿が思い浮かんでいきます。「とにかく日本人は簡単なことを忘れていて、納税者の節税団体として、きわめて大切なことだ」と喝破していたのです。

今日でいえば、まさにタックスパイヤーとしての気概を持って法人会が堂々と臨むことを伝えて余りあります。

真面目な納税者団体だからこそ、社会正義をもって、税の使い道へ意見を伝えていくことの大事さが滋味深く響いてきます。

筆者は昭和50年から仙台中、宮城県法連の事務局を務め、平成5年から現在の会社にて、全国各地の法人会支援を続け、法人会との関わりは45年以上となる。



公益社団法人 栗原法人会

～70年のあゆみ～

昭和	24.	11. 17	築館税務署管内を区域として会員 48 社が参加し、栗原法人協会を設立。
	栗原法人協会 〔昭和24年11月17日 就任〕  会長 門傳 勝太郎 (長崎村・門傳醸造株式会社) 副会長 高橋 文五郎 (若柳町・栗原鉄道株式会社) 副会長 那須 豊治 (志波姫村・志波姫村農業協同組合)		
			会長 門傳 勝太郎
	26.	2. 15	会員数 48 社
	31.	5. 23	会員数 89 社加入率 65%
	31.	11. 7	宮城県法人会連合会が結成される。
	34.	8. 1	東北六県法人会連合会が設立。
	46.	6. 1	全法連で福利厚生制度として「経営者大型保障制度」を発足。受託会社は大同生命保険相互会社とA I U 保険会社。
	49.	6. 21	栗原法人協会を発展的に解散し、新たに栗原法人会を設立。
	昭和	栗原法人会 〔昭和49年6月21日 就任〕  会長 今野 武夫 (築館町・株式会社今秀薬局) 副会長 鈴木 房雄 (築館町・株式会社鈴木商会) 副会長 上田 昌義 (若柳町・上田建設株式会社) 副会長 高橋 栄一 (栗駒町・株式会社栗駒高原荘)	
49.		9. 21	財団法人全国法人会総連合設立総会。
50.		10. 28	税務講演会を開催。(講師・仙台国税局税務主任相談官、遠藤恒光氏)
51.		3.	社団化準備積立金を開始。
51.		5. 24	役員改選、会長に今野武夫氏、副会長に高橋運太郎氏(栗駒町・株式会社高橋商店)、上田隆氏(若柳町・上田建設株式会社)、専務理事に鈴木洋一氏(築館町・南部屋印刷株式会社)が就任。
51.		9. 24	全法連主催の『昭和 52 年度税制改正要望全国大会』東京九段会館で開催に初参加。以降毎年参加。
53.		11. 1	今野武夫会長が仙台国税局長より納税高揚により表彰される。
55.		5. 8	役員会において社団化について検討。
55.		6. 7	昭和 55 年度通常総会において、栗原法人会を社団法人化することを決議。
55.		8. 23	社団化実行委員会を設置。(全役員で構成)
55.	9. 19	第 1 回社団化推進委員会を発足。(推進委員は全役員を含む 50 名で構成)	
55.	10. 9	社団化基金の募金を開始、同時に会員の加入促進運動を展開(目標加入率 70%、450 社、目標基金 1, 000 万円)	
55.	11. 12	築館税務署長より納税道義の高揚に対する貢献により表彰される。(青色申告制度施行 30 周年感謝状)	
56.	3. 31	会員数 379 社加入率 59.6%	
56.	4. 1	事務局に専従職員 1 名を配置。事務所は築館商工会内。	

昭和	56.	5. 7	栗原法人会を発展的に解散し、社団法人栗原法人会に改組。(会員数 379 社、加入率 59.6%、県内 7 番目・東北で 26 番目の設立)
	社団法人栗原法人会 〔昭和56年5月7日 就任〕  会長 今野 武夫 (築館町・株式会社今秀薬局) 副会長 鈴木 房雄 (築館町・株式会社鈴木商会) 副会長 高橋 運太郎 (栗駒町・株式会社高橋商店) 副会長 上田 隆 (若柳町・上田建設株式会社) 専務理事 鈴木 洋一 (築館町・南部屋印刷株式会社)		
			会長(初代) 今野 武夫
	56.	5. 14	仙台国税局長に社団法人栗原法人会の設立許可申請を行なう。
	56.	5. 29	仙台国税局長角農一郎殿より社団法人の設立許可書交付。(設立許可書、仙台国税局納第 15 号、昭和 56 年 5 月 26 日付)
	56.	6. 5	仙台法務局築館出張所に、社団法人栗原法人会の設立登記。
	56.	6. 5	社団法人栗原法人会設立記念式典を挙げる。
	57.	3. 31	会員数 389 社加入率 55.5%
	57.	11. 13	『税を知る週間』行事の一環として街頭パレードを実施。以降毎年開催。
	58.	3. 31	会員数 383 社加入率 53.5%
58.	4. 1	優良経理担当者表彰規定を制定、以降毎年通常総会で優良経理担当者を表彰。	
59.	3. 31	会員数 464 社加入率 64.0%	
59.	5. 18	会員増強功労者に感謝状を贈呈。以降毎年総会で表彰を行う。	
59.	12. 14	役員改選	
昭和	社団法人栗原法人会 〔昭和59年12月14日 就任〕  会長 鈴木 房雄 (築館町・株式会社鈴木商会) 副会長 高橋 運太郎 (栗駒町・株式会社高橋商店) 副会長 上田 隆 (若柳町・上田建設株式会社) 副会長 鈴木 洋一 (築館町・南部屋印刷株式会社) 専務理事 野口 國隆 (築館町・野口建設株式会社)		
	60.	3. 31	会員数 452 社加入率 60.0%



～70年のあゆみ～



昭 和	60.	4. 1	全法連で企業のリスク保全のため『経営保全プラン制度』を発足。受託会社はA I U 保険会社。
	61.	3. 31	会員数 469 社加入率 59.7%
	61.	11. 5	鈴木房雄会長が仙台国税局長より納税高揚により表彰される。
	62.	3. 31	会員数 510 社加入率 65.0%
	62.	6. 2	会員企業研修用機器としてスライド映写機を取り揃える。
	62.	6. 20	会員親睦家庭バレーボール大会を開催。(平成 4 年迄開催)。
	62.	11. 11	『税を知る週間』行事の一環として納税思想高揚講演会(講師・中村メイコ氏)を実施。
	63.	3. 31	会員数 530 社加入率 63.7%
	63.	5. 26	全法連会員 100 万社達成運動の成果により表彰される。
	64.	1. 13	新税に伴う講演会を実施。(講師・仙台国税局法人税課長佐川剛氏)
平 成	1.	2. 21	消費税セミナーを管内各地区で開催。
	1.	3. 31	会員数 557 社加入率 65.2%
	1.	4. 1	新・間接税『消費税(3%)』施行される。
	1.	6. 1	会員サービスのため事務局にファクシミリを設置、各種諸規定無料送信するファクシミリサービス開始。
	2.	3. 31	会員数 570 社加入率 64.1%
	2.	9. 1	会員企業研修用教材としてビデオテープの無料貸し出しをスタート。
	2.	9. 5	会員企業研修用機器として 100 インチ液晶ビジョンを取り揃える。
	2.	11. 6	上田隆副会長が仙台国税局長より納税高揚により表彰される。
	2.	11. 9	商法改正にともなう対策セミナーを開催。
	3.	3. 31	会員数 635 社加入率 69.6%
	3.	4. 1	商法・有限会社法の改正法施行。
	3.	11. 1	高橋運太郎副会長が仙台国税局長より納税高揚により表彰される。
	3.	11. 7	社団化 10 周年記念式典を挙げる。
	4.	3. 31	会員数 653 社加入率 66.0%
	4.	5. 19	役員改選により女性役員 5 名が就任。
4.	10. 15	全法連研修参加者倍増運動の参加人員増の成果により表彰される。	
4.	11. 11	『税を知る週間』行事の一環として納税思想高揚講演会(講師・三遊亭楽太郎氏)を実施。	
5.	1. 20	全国の法人会(438 単位会)が社団化を達成記念して基本理念とシンボルマークが制定される。	
5.	3. 31	会員数 687 社加入率 66.5%	

5.	5. 19	役員改選
<p>社団法人栗原法人会〔平成5年5月19日 就任〕</p>		
 <p>会長(三代) 高橋 運太郎</p>		
<p>会 長 高 橋 運太郎 (栗駒町・株式会社高橋商店)</p>		
<p>副 会 長 上 田 隆 (若柳町・上田建設株式会社)</p>		
<p>副 会 長 鈴 木 洋 一 (築館町・南部屋印刷株式会社)</p>		
<p>副 会 長 及 川 敏 夫 (栗駒町・及川薬局株式会社)</p>		
<p>専務理事 野 口 國 隆 (築館町・野口建設株式会社)</p>		
5.	7. 1	事務所を小野寺ビル 2 階(築館町薬師四丁目 2 番 5 号)に移転。事務局 2 名体制となる。
5.	10. 26	鈴木洋一副会長が仙台国税局長より納税高揚により表彰される。
6.	3. 31	会員数 710 社加入率 66.2%
6.	5. 1	全法連で厚生制度の一環として『痴呆・介護保険制度』を導入。受託会社はアメリカンファミリー生命保険。
6.	5. 19	青年部会・女性部会の設立を決議する。定款変更承認、目的・事業の変更並びに理事定数増を決議する。
7.	1. 10	定款変更認可。理事の定数増員。
7.	2. 23	兵庫県南部地震に対する義援金を県連を通して、兵庫県災害対策総合本部に送付。
7.	3. 9	青年部会(会員数 72 名、県内 9 番目・東北で 48 番目の設立)・女性部会(会員数 55 名、県内 3 番目・東北で 13 番目の設立)設立総会開催。初代青年部会長に佐々木信夫氏(瀬峰町・株式会社佐々木貞土建)、初代女性部会長に佐藤由美子氏(築館町・株式会社佐勝)が就任。
7.	3. 23	青年部会・女性部会設立記念講演会(講師・仙台国税局課税第二部次長、吉田泰三氏)と披露式典実施。
7.	3. 31	会員数 728 社加入率 67.4%
7.	6. 5	事務所を築館たばこ会館 1 階(築館町伊豆三丁目 1 番 20 号)に移転。(686m ²)。
8.	3. 31	会員数 724 社加入率 65.8%
8.	4. 1	商法改正、最低資本金制度導入。
8.	4. 17	青年部会役員改選、二代目部会長に高橋清行氏(栗駒町・有限会社成輪)が就任。
8.	5. 23	会費規約の一部改正(基本割を設定)
9.	3. 31	会員数 722 社加入率 65.8%
9.	4. 1	間接税『消費税(5%)』に引き上げられる。
9.	4. 21	女性部会役員改選、二代目部会長に曾根志げ氏(栗駒町・曾根電気工業株式会社)が就任。
9.	8. 1	法人税確定申告書に会員のみが貼る「会員シール」を作成。(平成 22 年迄)
10.	3. 31	会員数 725 社加入率 65.1%
10.	4. 20	厚生制度推進員表彰規程制定。以後総会時に表彰。

～70年のあゆみ～



- 10. 4. 22 青年部会役員改選、三代目部会長に小野寺健太郎氏（若柳町・有限会社松野屋家具店）が就任。
- 10. 5. 21 役員改選

社団法人栗原法人会〔平成10年5月21日 就任〕



会長（四代）
上田 隆

- 会 長 上 田 隆
(若柳町・上田建設株式会社)
- 副 会 長 鈴 木 洋 一
(築館町・南部屋印刷株式会社)
- 副 会 長 太 宰 作治郎
(栗駒町・株式会社太宰商店)
- 副 会 長 中 嶋 慶 次
(若柳町・株式会社宮城ハイトロニクス)
- 専務理事 早 坂 健 吾
(若柳町・株式会社早坂工業所)

平成

- 10. 11. 14 社会貢献事業「移動租税教室・栗原郡内公共施設見学」小学校6年生26名と税務署・グリーンセンター・消防署見学を行った。
- 11. 3. 31 会員数715社加入率63.7%
- 11. 10. 8 社会貢献事業「移動租税教室・栗原郡内公共施設見学」小学校6年生24名と税務署・グリーンセンター・消防署見学を行った。
- 12. 3. 31 会員数725社加入率64.73%
- 12. 4. 26 青年部会改選、四代目部会長に伊藤正吾氏（志波姫町・株式会社大平昆布）が就任。
- 12. 11. 17 社会貢献事業「移動租税教室・栗原郡内公共施設見学」鳥矢崎小学校6年生22名と税務署・グリーンセンター・消防署見学を行った。
- 13. 3. 31 会員数709社加入率64.93%
- 13. 4. 20 女性部会役員改選、三代目部会長に山川正江氏（一迫町・山川電子有限会社）が就任。
- 13. 5. 22 社団化20周年記念式典を挙行。
- 13. 5. 22 役員改選

社団法人栗原法人会〔平成13年5月22日 就任〕



会長（五代）
鈴木 洋一

- 会 長 鈴 木 洋 一
(築館町・南部屋印刷株式会社)
- 副 会 長 中 嶋 慶 次
(若柳町・株式会社宮城ハイトロニクス)
- 副 会 長 阿 部 英 雄
(栗駒町・株式会社白鳥建設)
- 副 会 長 佐 藤 和 男
(築館町・マルエス商事株式会社)
- 専務理事 阿 部 忠 雄
(築館町・株式会社カネチュー電設)

- 13. 10. 22 青年部会が栗原法人会のホームページを開設。
- 13. 11. 12 社会貢献事業「移動租税教室・栗原郡内公共施設見学」長崎小学校4年生13名と税務署・グリーンセンター・消防署見学を行った。
- 14. 3. 31 会員数691社加入率61.92%
- 14. 4. 22 青年部会改選、五代目部会長に菅原智樹氏（栗駒町・株式会社若林組）が就任。

- 15. 3. 31 会員数655社加入率57.61%
- 15. 5. 23 役員改選

社団法人栗原法人会〔平成15年5月23日 就任〕



会長（六代）
中嶋 慶次

- 会 長 中 嶋 慶 次
(若柳町・株式会社宮城ハイトロニクス)
- 副 会 長 阿 部 忠 雄
(築館町・株式会社カネチュー電設)
- 副 会 長 田 中 正 義
(金成町・株式会社田中測量設計)
- 副 会 長 千 葉 隆 雄
(栗駒町・株式会社千葉興業)
- 専務理事 佐々木 秀 雄
(若柳町・城北環境株式会社)

平成

- 16. 2. 7 青年部会社会貢献事業「EDOゲーム江戸時代から学ぶ現代の忘れ物」市内小学生を対象に開催。
- 16. 3. 31 会員数625社加入率57.13%
- 16. 10. 15 青年部会設立10周年記念式典を開催。「あなたに元気を！栗原に元気を！」と題して記念講演開催。（講師・東北福祉大学助教授佐藤伊知子氏）。
- 16. 10. 29 社会貢献事業「新潟県中越地方地震支援物資」山古志村10万円相当使い捨てカイロ贈呈。
- 16. 11. 11 「税を考える週間」に改称
- 17. 1. 24 社会貢献事業「新潟県中越地方地震義援金」贈呈。新春講演会時募った41797円。
- 17. 3. 31 会員数610社加入率53.98%
- 17. 4. 1 栗原郡10ヶ町村が合併して栗原市が誕生。
- 17. 4. 21 女性部会設立10周年記念式典を開催。「人間は変わる」と題して記念講演開催。（講師・作家三好京三氏）。
- 17. 4. 25 青年部会改選、六代目部会長に鈴木 啓氏（志波姫・有限会社荒町屋商店）が就任。
- 17. 9. 23 青年部会社会貢献事業「民族歌舞団ほうねん座」公演を開催。市内在住小学生とその家族122名を招待。
- 17. 11. 28 社会貢献事業「租税教室」栗駒中学校3年生117名。中嶋慶次会長が講師を務める。
- 17. 12. 6 女性部会社会貢献事業「児童図書150冊」市内児童館や保育所へ寄贈。
- 18. 3. 31 会員数584社加入率53.14%
- 18. 11. 2 中嶋慶次会長が仙台国税局長より納税高揚により表彰される。
- 18. 11. 21 女性部会社会貢献事業「児童図書128冊」市内児童館・保育所へ寄贈。
- 19. 2. 10 青年部会社会貢献事業「民族歌舞団ほうねん座」公演を開催。栗原市民500名をご招待。「未使用タオル等430枚」市社会福祉協議会寄贈。
- 19. 3. 10 役員企業においてe-Tax開始届出書提出100%達成。
- 19. 3. 31 会員数570社加入率53.27%
- 19. 4. 20 女性部会役員改選、四代目部会長に佐藤さく子氏（若柳・株式会社白石硝子）が就任。

～ 70年のあゆみ～



19. 5. 24 役員改選

社団法人栗原法人会 [平成19年5月24日 就任]



会長(七代)
阿部 忠雄

- 会 長 阿 部 忠 雄
(築館・株式会社カネチュー電設)
- 副 会 長 田 中 正 義
(金成・株式会社田中測量設計)
- 副 会 長 後 藤 紀 美 夫
(栗駒・後藤ボーリング株式会社)
- 副 会 長 高 橋 幸 男
(築館・有限会社五洋商事)
- 専務理事 佐 藤 完
(志波姫・株式会社環境産業)

平成

- 20. 3. 31 会員数 522 社加入率 48.65%
- 20. 6. 14 岩手・宮城内陸地震発生。栗原市マグニチュード 7.2 記録。死者・行方不明者あり。
- 20. 8. 7 社会貢献事業「岩手・宮城内陸地震義援金」贈呈。全国の法人会 14 団体により 80 万円。
- 21. 3. 31 会員数 483 社加入率 45.39%
- 21. 4. 24 女性部役員改選、五代目部長に野口好江氏(築館・野口石油株式会社)が就任。
- 21. 4. 25 青年部役員改選、七代目部長に川嶋哲氏(若柳・株式会社はさま会館)が就任。
- 21. 5. 17 社会貢献事業「市民ふれあいコンサート」を開催。陸上自衛隊東北方面音楽隊による演奏会開催。889 名の市民来場。市社会福祉協議会へ未使用タオル 718 枚寄贈。
- 21. 7. 17 社会貢献事業震災復興「講演会・絵手紙教室」を開催。講演会講師に大野勝彦氏と石川健次氏、絵手紙教室講師は石川節子氏。大野勝彦氏による「釜神さま」の水墨絵を栗原市栗駒「みちのく伝創館」に寄贈。同会場にて盲導犬育成募金(収益金 33512 円)もおこなった。来場者 200 名。
- 21. 11. 5 阿部忠雄会長が仙台国税局長より納税高揚により表彰される。
- 21. 12. 12 青年部会社会貢献事業「栗原復興祈念ほうねん座公演」を開催。ほうねん座に「栗原復興太鼓」を作曲、若ヶ崎小学生有志が演奏しオープニングを飾る。市社会福祉協議会へ未使用タオル 141 枚寄贈。
- 22. 3. 31 会員数 478 社加入率 48.19%
- 22. 7. 1 会員サービスの一環としてオンデマンドセミナーを採用し、研修の充実を図る。
- 22. 8. 19 広報委員会新設。(年度内に広報誌 2 回発行 2,000 部)
- 22. 9. 5 社会貢献事業震災復興「市民ふれあいコンサート」チェロ・ソロ・パフォーマンスコンサート」を開催。Jazz チェリスト吉川よしひろ氏による演奏会。来場者数 147 名。市社会福祉協議会へ未使用タオル 160 枚寄贈。
- 22. 9. 14 女性部会社会貢献事業「救急救命講習」開催。38 名参加
- 23. 2. 27 社会貢献事業震災復興「税金クイズ大会 & 栗原のど自慢カラオケ大会」を開催。

23. 3. 11

東日本大震災発生。栗原市は震度 7 を記録。事務所内は器物破損等の被害。市内は停電・断水、会員企業は営業停止や精密機械等破損により甚大な被害をもたらした。

23. 3. 17

社会貢献事業「被災地のための炊き出し活動」ボランティアを募って行った。

23. 3. 31

会員数 463 社加入率 47.39%

23. 6. 20

定款の一部変更認可。理事の定数減。

23. 7. 1

女性部会社会貢献事業「お茶わんプロジェクト」参画。

23. 8. 16~

税制セミナー「震災特例法について」・「申告相談会」の開催。

23. 9. 16~

社会貢献事業「大震災による労働者ストレスチェック含む無料健康診断」の実施。市民受診者 1000 名以上。

23. 11. 24

社団化 30 周年記念式典を挙行。

平成

24. 3. 25

震災復興事業文化講演会「書道家金澤親子が栗原に來福」344 名の来場者。

24. 3. 31

震災復興事業「全国からのあったか絵手紙展」・「絵手紙教室」開催。

24. 3. 31

広報委員会が栗原法人会のホームページをリニューアル開設。

24. 3. 31

会員数 464 社加入率 47.93%

24. 4. 1

震災復興全国からの「あったか絵手紙」展 3300 作品展示。192 名来場者。

24. 5. 29

平成 24 年度通常総会にて「公益社団法人への移行認定停止条件決議」議案提出。

24. 10. 24

阿部忠雄会長が国税庁長官より納税高揚により表彰される。

24. 11. 11

震災復興事業「栗原のど自慢カラオケ大会」157 名の来場者。

25. 3. 18

宮城県知事より公益社団法人への移行認定書の交付。

25. 3. 31

会員数 454 社加入率 46.61%

25. 4. 1

社団法人栗原法人会解散登記並びに公益社団法人栗原法人会設立登記完了。

平成

公益社団法人栗原法人会

[平成25年4月1日 就任]



会長(初代)
上田 徹

- 会 長 上 田 徹
(若柳・上田建設株式会社)
- 筆頭副会長 白 鳥 正 文
(一迫・有限会社川口グリーンセンター)
- 副 会 長 後 藤 紀 美 夫
(栗駒・後藤ボーリング株式会社)
- 副 会 長 佐 々 木 信 夫
(瀬峰・株式会社佐々木貞土建)
- 専務理事 鹿 野 敏
(築館・株式会社志波姫運輸)

25. 4. 23

社会貢献事業書道家金澤翔子さんの書「生命」を栗原市に寄贈。

25. 10. 25

市民公開講演会「知っていますか?がん治療の最前線」開催。50 名参加

25. 10. 31

上田徹会長が仙台国税局長より納税高揚により表彰される。

～70年のあゆみ～



平成	26.	4. 1	間接税「消費税（8%）」に引き上げられる。
	26.	3. 31	会員数 457 社 (正会員 393 社・賛助会員 64 社)
	26.	9. 11	市民公開講演会「救急救命講習」開催。33 名参加
	26.	10. 22	女性部会設立 20 周年記念講演会「笑う顔には福来る」
	27.	1. 29	女性部会震災復興応援事業「こまっちゃぐれタオル販売」
	27.	2. 25	青年部会設立 20 周年記念事業「くりはら芸術鑑賞会」
	27.	3. 31	会員数 461 社 (正会員 397 社・賛助会員 64 社)
	27.	4. 22	女性部会役員改選、六代目部会長に高橋美紀子氏（栗駒・株式会社タカギ）が就任。
	27.	5. 28	「マイナンバー制度の概要」説明会開催。
	27.	7. 23	市民公開講演会「歩いてキレイにウォーキングで健康ダイエット」開催。36 名参加
	27.	10. 1	事務所を移転。栗原コスモビル 2 階（築館町伊豆三丁目 1 番 10 号）に入居。
	27.	11. 11	佐々木信夫副会長が仙台国税局長より納税高揚により表彰される。
	28.	1. 1	マイナンバー制度の開始。
	28.	7. 29	市民公開講演会「絵手紙教室」開催。60 名参加
	28.	3. 31	会員数 465 社 (正会員 395 社・賛助会員 70 社)
	29.	3. 31	会員数 467 社 (正会員 397 社・賛助会員 70 社)
	29.	4. 20	青年部会役員改選、八代目部会長に今野武氏（栗駒・株式会社今野ハウジング）が就任。
	29.	7. 24	市民公開講演会「ねこ様に学ぶ生き方」開催。27 名参加
	30.	11. 13	「よくわかる消費税軽減税率制度」説明会開催。
	30.	3. 31	会員数 460 社 (正会員 388 社・賛助会員 72 社)
	30.	5. 30	青年部会が築館税務署長から「税」の写真展開催より感謝状贈呈される。
	30.	6. 1	広報委員会が栗原法人会のホームページをリニューアル開設。
	30.	7. 21	市民公開講演会「アート書道教室」開催。51 名参加
	30.	10. 24	上田徹会長が国税庁長官より納税高揚により表彰される。
	30.	12. 21	栗原市にビックハートネットワーク贈呈式（震災復興支援で協力受託会社より 100 万円寄付）
	30.	11. 9	青年部会が単位会純増基準全国第 4 位優秀賞受賞。前年対比 230.8%増
	30.	11. 14	「よくわかる消費税軽減税率制度」説明会開催。
	31.	3. 31	会員数 461 社 (正会員 386 社・賛助会員 75 社)

平成	31.	4. 18	青年部会役員改選、九代目部会長に鈴木章広氏（築館・株式会社築館看板）が就任。
	31.	4. 19	女性部会役員改選、七代目部会長に阿部容子氏（築館・株式会社カネチュー電設）が就任。
令和	1.	5. 29	栗原法人会が築館税務署長から消費税の軽減税率制度の周知・広報活動より感謝状贈呈される。
	1.	5. 29	消費税軽減税率制度説明会開催。
	1.	7. 20	市民公開講演会「アート書道教室」開催。31 名参加
	1.	10. 1	標準税率「消費税（10%）」に引き上げられる。軽減税率「消費税（8%）」導入される。
	1.	11. 22	創立 70 周年記念式典を挙行。

…社会貢献事業…

- ◆ 心と心をつなぐ絵手紙教室
(平成9年～10回開催)
 - ◆ 老人ホーム慰問
(平成10年～3回開催)
 - ◆ 未来のくりはら絵画展
(平成11年～6回開催)
 - ◆ チャリティーバザー
(平成12年～3回 349,541円寄付)
 - ◆ 未使用タオル収集と寄付
(平成15年～12回 12,744枚寄贈)
 - ◆ 租税教室
(平成19年～40回継続中)
 - ◆ 公開講演会
(平成20年～89回継続中)
 - ◆ 税に関する絵はがきコンクール
(平成20年～11回継続中)
 - ◆ いちごプロジェクト
(平成23年～9回継続中)
 - ◆ とっておきの音楽祭
(平成25年～5回開催)
 - ◆ 震災復興応援研修会
(平成25年～7回継続中)
 - ◆ 市民健康パークゴルフ大会
(平成25年～7回継続中)
 - ◆ くりはら大運動会
(平成28年～4回継続中)
 - ◆ 高校生の税の写真展
(平成29年～3回継続中)
 - ◆ 税を考える週間カレンダー配布
(平成29年～3回 3,000枚配布・継続中)
- …等々…

2019

令和元年

70th
Anniversary

法人会の理念

法人会は税のオピニオンリーダーとして

企業の発展を支援し

地域の振興に寄与し

国と社会の繁栄に貢献する

経営者の団体である



公益社団法人 栗原法人会

〒987-2216 栗原市築館伊豆三丁目1番10号 (栗原コスモビル2階)

TEL. 0228-22-2775 FAX. 0228-22-2774

E-mail : office@kuri-ho.com

URL : <https://www.kuri-ho.com>